

令和3年12月6日
交流推進担当部
交流推進担当課

「令和3年度 大学学長と区長との懇談会」の実施報告について

1 主旨

「世田谷区総合戦略」の基本目標にある「地域人材と社会資源を活用した活力ある地域社会の構築」の実現に向け、大学の持つ専門性や地域資源を活かしながら、地域社会の発展に向けた大学と区との連携・協働を推進することを目的に、「令和3年度 大学学長と区長との懇談会」を開催したので報告する。

2 概要

(1) 日時

令和3年11月17日（水） 10時～12時

(2) 会場

東京都市大学二子玉川夢キャンパス

（世田谷区玉川2-21-1 二子玉川ライズ・オフィス8階）

(3) 出席者

大学側：東京都市大学、国士舘大学、駒澤大学、産業能率大学、昭和女子大学、成城大学（ZOOM参加）、多摩美術大学（ZOOM参加）、テンプル大学ジャパンキャンパス（ZOOM参加）、東京医療保健大学（ZOOM参加）、日本女子体育大学、日本大学文理学部、日本大学商学部、日本大学危機管理学部、日本大学スポーツ科学部 計14大学

※東京農業大学、日本体育大学、明治大学は欠席

区側：区長、両副区長、教育長、教育政策部教育参与、交流推進担当部長

(4) 懇談会

テーマ：「世田谷区教育総合センター開設に向けた大学との連携」

①新しい教育総合センターの概要とその役割について

令和3年12月に開設する新しい教育総合センターの施設概要、世田谷区の学校教育改革を進めるための役割、小中学校と大学との連携機能について説明。

②学長と区長との懇談

各大学の専門性や資源を活用した教育総合センターと大学との連携の可能性について意見交換を行った。

<主な意見>

1) 教育総合センターと大学との連携提案

- ・ 日本語教育の専門家がおり、教科「日本語」の充実に向けた協力ができる。
- ・ 医療に関する市民公開講座を実施してきた経験から、教育総合センターでも同様に実施できればと思う。
- ・ 幼稚園教育も力を入れていることから、乳幼児教育についての連携ができる。

- ・情操・教養教育を教育の柱の1つとしており、正課外活動を重視している。教育総合センターが不登校対策の拠点であるならば、学生サポーターを派遣するといった協力ができる。
- ・中学校ではダンスが必修となっており、教員が苦勞しているという話を聞く。体育の専門知識や必修のダンス指導などの教員研修に協力できる。
- ・初等教育におけるビジネス教育を考えていくべきである。証券取引の専門家などがいるので、ゲーム感覚で学ぶ場を提供できると考える。

2) 教育総合センターと大学との連携についての意見

- ・教育総合センターの開設により、属人的な連携が解消され、学校と大学の継続的な連携を目指したい。
- ・大学にとって研究の場となり、学生の学び・成長の場となるような連携事業の展開が望ましい。
- ・地域貢献することが学生の成長につながるということを重視した連携をしたい。
- ・各大学の提案が具現化し、文化・教育の発展につながることを期待し、それに向けた協力をしたい。

3) 今後の教育

- ・現在の小中学生はデジタル機器に慣れ親しんでいる。今後のデジタル社会に向けICT教育をより進める必要がある。
- ・小学生といった早い時期にビジネス等に関心を持ってもらえるような、キャリア教育に力を入れていくことが大事である。

4) 区側意見

- ・様々な分野において各大学と連携・協力した取組みを行っている。そういった実践成果を区内で共有する機能が前進するよう取り組む。
- ・新しい教育総合センターの開設は、学校支援、教員支援といったコンセプトがもとになっている。各大学の提案や今後の協力により、小中学校の教育に良い影響のあるセンターにしたい。
- ・線から面への連携となるようシステムを整え、より広く、深く連携し、世田谷の教育の質の転換を目指していく。

5) 令和4年度に向けて

各大学担当者と教育委員会事務局による協議の場を設け、教育総合センターと大学との連携による教育課題解決及び教育の質の向上を目指した取組みを具現化していくことを確認した。

(5) その他

① コロナ禍における学生への支援策等の各大学の状況報告

コロナ禍における学生に対する支援として、メンタル相談、大学独自の奨学金や授業料の減免、企業などの支援を活用した学生支援、また、新型コロナウイルス感染防止の徹底など、各大学が工夫した取組みについて情報共有を行った。

② 懇談会内容について、世田谷区HPにて公表する。(令和3年12月中旬予定)

【当日の様子】

